

発達障害の理解と対応について

“風薫る…”の季語にふさわしいさわやかな風が吹く 5 月 19 日（木）に「発達障害の理解と対応について」と題して、支援研を開催しました。今回は発達障害者福祉法ができて言葉は随分知られるようになりましたが、まだまだ関わり方を含めて分かりづらい「発達障害」をテーマに取り上げました。



発言者は、北九州市発達障害者支援センターつばさセンター長 酒井一栄さんです。ユーモアあふれる語り口で、2時間の長丁場をおひとりでお話し頂きました。

スライドに沿って、進められましたが、「発達障害者支援法で定める発達障害」に始まり、「発達障害とは」、「AD/HD（注意欠陥多動性障害）」、「LD（学習障害）」、「自閉症について」等々、発達障害の基礎から丁寧に話し頂きました。それぞれの障害の、基本的な特徴等をお話し頂く中で、実際の酒井さんの言葉を引用しつつ、印象に残ったことをご紹介します。



まず、発達障害は特別な障害ではなく、身近な障害であるということ。あなたの周りにいる“不思議な人”“変な人”だなあとと思っている人が、実は発達障の方かもしれません。発達障害者は人の気持ちを理解することが難しい人が多く、言葉の裏に隠された意味を推し量ることが苦手です。そんな人にはどう接したらよいのか迷うところですが、苦手な事に対して、一つひとつ丁寧なサポートが大切なことから、「耳からの情報を理解するのが難しい人が多いので、視覚的な支援を行う。」「見通しのきかないことをとても不安に思うので、見通しを立てる。」ことと、発達障害はいろいろな特徴があり、一人ひとり異なっているので、個々に応じた対応や障害だけを見るのではなく、得意なことを見極め伸ばすことが必要とのことでした。



日本人は人と違うことを嫌いますが、一人ひとり違うのが人間なのです。違うところを障害として捉えるのではなく、個性として捉え、その個性を重んじることが大切なのです。課題はまだ山積みのようなのですが、まずはこの発達障害に関して、皆の知識を深めることが重要なのではないのでしょうか。

今回は時間がなく、皆さんのご意見・ご質問時間が十分にとれなかったのが大変残念でしたが、発達障害にはたくさんの方の関心が寄せられています。今後も発達障害をテーマとした支援研究会があると思われますので、又の機会にご期待下さい。

尚、今回の参加者数は 56 名で、うち 26 名もの新規の方にご参加頂きました。次回以降も多数の皆さまのご参加をお待ちしております。



※こちらの議事録は北九州市障害者自立支援協議会のホームページでもご覧いただけます。

<http://kitakyushu-net.shien-c.com/>



Memo

発達障害者支援センター つばさ とは

自閉症、アスペルガー症候群、LD、ADHD などの発達障害のある障害児（者）や、ご家族の地域生活を支えることを目的に、平成 15 年に小倉南区春ヶ丘市立総合療育センター内に設置されました。

啓発のため、「発達障害の理解と支援 Q&A」という小冊子を作成しており、ホームページから自由にダウンロードできるようになっています。ホーム画面から各種資料画面へお進みください。

<http://www.tsubasa.kitaq-src.jp/>

発達障害の理解と支援

Q&A

—お役所—

発達障害について理解して欲しい人
発達障害のある人への理解を促して欲しい人
困っている人への助けを求めたい人
このパンフレットはそんな人達に役立つ資料です。



監修者（17歳）市川 翔太（2017年）

北九州市
北九州市発達障害者支援センター「つばさ」
北九州市発達障害者支援センター運営委員会